

商品の悪用防止のためグリーンセンターで訓練

11月18日(木)、雄和グリーンセンターと秋田東警察署が爆発物の原料となり得る商品の悪用を防ぐため、販売時の対応訓練を行いました。同署員が尿素を大量に購入しようとする客に扮して、同センターの職員が本人確認方法などを確認しました。

訓練では、客役の同署員が尿素の在庫数全てを購入しようとする、職員が身分証明書の提示を求めました。拒まれると販売を断り、警察に不審客の特徴や会話内容などを通報しました。

同署は「爆発物によるテロ事件などを未然に防ぐため肥料や農薬などを販売するときは十分に注意し、不審な客が来た場合は情報提供に協力してほしい」と話しました。

不審客に扮する署員に身分証明書の提示を求める職員(左)



当JAが「秋田県SDGsパートナー」に

当JAが「秋田県SDGsパートナー」に登録され、11月19日(金)に秋田県から登録証が贈られました。同パートナーはSDGsの達成に意欲的な団体や企業などを登録してPRする県独自の制度で、県内JAでは初の登録となりました。第1期には当JAを含む288者が登録されており、期間は3年間となっています。

佐藤広美組合長は「SDGsはJAの協同の理念と合致している。地域に根差したJAの活動を通して、SDGsの達成につなげていく」と話しました。当JAは持続可能な農業生産や環境負荷の軽減、豊かな地域社会の実現のため、SDGsに向けた活動に今後さらに尽力していきます。

当JAが授与した「秋田県SDGsパートナー」登録証



NEWS & TOPICS

店舗づくりを競うコンテストで入賞

資材店舗の売り場づくりを競う「JA資材店舗CS甲子園2021」が行われ、参加した138JAの451店舗のうち、雄和グリーンセンターが大型陳列部門の敢闘賞に輝きました。「東北地区JA店舗ディスプレイコンテスト2021」のテーマ別部門では、雄和グリーンセンターが金賞を、若美グリーンセンターが銅賞を受賞しました。昨年まで行われていた「JAPOP甲子園」に続く快挙で、除草剤の効果や規格などを来店者の注目が集まるように表現した訴求力が評価されました。

するブラックボードを来店者の目を惹くようカラフルに、保障内容をわかりやすく仕上げました。今後も活気ある店舗づくりに取り組み、利用者の皆様の満足度向上に努めていきます。

今年初めて開催された「JA共同ブラックボード活用コンテスト」では、金賞に秋田駅東支店が、特別賞に秋田県農協ビル支店が選ばれました。両支店とも医療共済「メディフル」を取り上げ、支店内に設置



- 1 雄和グリーンセンター
- 2 若美グリーンセンター
- 3 秋田駅東支店
- 4 秋田県農協ビル支店

